

## 【文献講読発表の要領】

### ・発表の準備の仕方

- 最初に一度読む。できれば、担当部分のすこし前の部分から読む。全体の内容をつかむ。
- もう一度読む。各項での内容を詳しく読む。メモをとりながら読む。
- 各項でなされている主張を読み解いて確認する(各項の主張)
- 各項同士で、主張がどのように関連して、おおきな論が作られているのかを確認する(項同士の主張の流れ)。
- 各項内での主張がどのように形作られていくかを読み解く(各項での主張の過程、論理構造)。

### ・「要約の発表」とは何を発表したら良いのか？

1. 全体の大まかな内容を示す。
2. 少し具体的に「項同士の主張の流れ」を示す。
3. 本文に沿って、具体的に「各項での主張」がなされる過程(論理構造)を発表する。

### ・発表ツールについて

- 発表準備方法 - アウトラインプロセッサー“beitel”(バイト)。 DownLoad 先 <http://beitel.carabiner.jp/>
- 発表ツール(googleのプレゼンテーション, マイクロソフト“Power Point”)
- 紙の配布レジュメ作成(マイクロソフト“Word”、アドビ“Illustrator”など)

## 【問題提起の仕方の要領】

(その一例)

- ・例えば、“5W1H”の考え方を応用して「問い」を生み出す。

5W = When(いつ), Where(どこで), Who(だれが), Why(なぜ), What(なにを),  
1H = How(どのように), ※ How much(いくらで, どの程度,,,)

- ・例えば、要約した部分で興味をもったことについて、その具体的事例を掘り下げることで「問い」を生み出す。
- ・担当部分の内容のうち、どう考えても事実と異なると思われる部分を指摘の上、それに関して他の参加者の見解を請う。
- ・担当部分の内容のうち、発表者の専門分野に応用できる部分を指摘の上、それに関して他の参加者の見解を請う。

### ▼問題提起を行う上での参考文献

- ・澤田昭夫「第6章 問題の見つけ方、問いの切り出し方」『論文のレトリック』講談社学術文庫、1983年、pp.58-63頁。
- ・戸田山和久「第5章 論文の種としてのアウトライン」『新版・論文の教室』NHKブックス、2012年、pp.121-131頁。